

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
麻生医療福祉 専門学校福岡校		平成9年2月13日		竹口 伸一郎		〒812-0016 福岡市博多区博多駅南2-12-29 (電話) 092-415-2294		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人麻生塾		昭和26年3月12日		麻生 健		〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999		
目的	社会福祉士受験資格取得(実務経験要1年)及び精神保健福祉士受験資格取得(実務経験要1年)の為の指定科目履修を行い、高い専門性を有した福祉専門職の養成を行なう。また、独自の人間力向上のためのGCB教育を柱に、向上心と協調の精神をもって広く社会に貢献できる人間性豊かな人材を育成する。							
分野	課程名		学科名		専門士		高度専門士	
教育・ 社会福祉	福祉・教育専門課程		心理カウンセラー科 平成28年度より学科名変更 福祉心理学科		平成22年文部科学大臣 告示第152号		—	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	講義	演習	実習	実験	実技	
3	昼間		2996	1534	1042	420	0	0
単位時間								
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数		総教員数
90		56		3		30		33
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各期毎5段階にて評価 担当教員が定期試験、出席等の状況をもとに評価		
長期休み	■夏季:8月4日～9月19日 ■冬季:12月24日～1月9日 ■春季:2月21日～4月9日			卒業・進級 条件		ア.指定科目全ての修得 イ.学年の出席率90%以上 ウ.卒業基準検定の取得 エ.学生としてふさわしい生活態度		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 ガイダンスの実施。学科責任者との面談、 3者面談の実施。			課外活動		■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動: 有		
就職等の 状況	■主な就職先、業界等 社会福祉・精神保健福祉分野 ■就職率 ^{※1} : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 91.2 % ■その他 (平成 28 年度卒業者に関する 平成29年4月1日 時点の情報)			主な資格・ 検定等		社会福祉士受験資格(実務経験1年要) 精神保健福祉士受験資格(実務経験1年要)福祉 心理士(実務経験1年要)		
中途退学 の現状	■中途退学者 4名 ■中退率 5.2 % 平成28年4月1日時点において 在学者 76名 (平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において 在学者 72名 (平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路の変更、健康問題、経済的問題など ■中退防止のための取組 担任による要因を抱えた学生に対する個別面談。学生の情報を教員間で共有しながらの検討会の実施。学科責任者や保護者を含めての面談。ガイダンス記録による報告。							
ホームページ	URL: http://www.asojuku.ac.jp/amfc/							

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

心理学やカウンセリングを中心に学びながら、そこで得た知識や技術を福祉の現場でいかに発揮するかということに主眼をおいたカリキュラムを編成している。更に、社会福祉士及び精神保健福祉士の国家試験受験資格(実務経験1年要)のカリキュラムを並行して履修することにより、高度な専門職としての知識及び技術を習得できる。

実習においては、県内複数の実習施設と密に連携・調整をしており、実習終了後には、実習施設の担当者と意見交換を交わして本校教育にフィードバックしている。

また、福祉現場で重要視されるマナーや職業人として持つべき志についても、本校独自のカリキュラムであるGCB(global-citizen-basic感謝と志の教育)を通じて、その人間力向上に力を注いでいる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

専門性に関する動向や方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とする。委員会は、次の事項を審議し、会議の結果をカリキュラム会議に報告するものとする。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
大庭 欣二	社会福祉法人 シティ・ケアサービス 管理本部 本部長	平成29年4月～30年3月	③
江川 順一	特別養護老人ホーム 月隈愛心の丘 施設長	平成29年4月～30年3月	③
桑原 由美子	NPO法人 発達障がい者就労支援 ゆあしつづ 理事長	平成29年4月～30年3月	③
武田 聡	NPO法人 木もれ日 カフェヒュッテ 施設長	平成29年4月～30年3月	③
占部 尊士	西九州大学短期大学部 准教授	平成29年4月～30年3月	②
松尾 智子	公益社団法人 福岡県介護福祉士会 研修委員	平成29年4月～30年3月	①
今村 浩司	北九州地区 精神保健福祉士協会 会長	平成29年4月～30年3月	①
竹口 伸一郎	麻生医療福祉専門学校福岡校 校長	平成29年4月～30年3月	
上野 慎輔	麻生医療福祉専門学校福岡校 校長代行	平成29年4月～30年3月	
山下 和美	麻生医療福祉専門学校福岡校 校長代行補佐	平成29年4月～30年3月	
前田 浩明	麻生医療福祉専門学校福岡校 副主任	平成29年4月～30年3月	
案納 賀世子	麻生医療福祉専門学校福岡校 ソーシャルワーカー科 リーダー	平成29年4月～30年3月	
川原 ゆり	麻生医療福祉専門学校福岡校 社会福祉科 リーダー	平成29年4月～30年3月	
小副川 賢治	麻生医療福祉専門学校福岡校 福祉心理学科 リーダー	平成29年4月～30年3月	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間開催数)

3回

(開催日時)

第1回 平成28年6月25日(土)13:00～14:00

第2回 平成28年11月11日(金)16:00～18:00

第3回 平成29年3月3日(金)16:00～18:00

(開催日時 予定)

第1回 平成29年6月24日(土)13:00～14:00

第2回 平成29年11月10日(金)16:00～18:00

第3回 平成30年3月2日(金)16:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

30年度カリキュラム変更に向けての教育プログラムを再構築(スクールソーシャルワーカーをめざす学生に必要な不可欠な知識等について)するために必要な科目やカリキュラムについて、本学科提案資料に基づいて助言及び指導をいただいた。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本学科では、社会福祉士資格取得にかかる相談援助実習を240時間及び精神保健福祉士資格取得にかかる精神保健福

社援助実習を240時間履修することから、平素からの実習施設との有機的な連携をもとに、カリキュラムを編成している。また、必要に応じて病院や福祉施設の専門職を招いての講義、施設利用者(当事者)の方の講義などをカリキュラムに組み込んでいる。

さらに、演習においては可能な限りフィールドワークを実施し、現実が生じている事象から学習を深めていくことを重視している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

実習実施前に、施設担当教員と実習指導者が打ち合わせを行い、実習計画や内容、実習概要について協議・調整を行う。実習期間中は教員が巡回及び帰校日指導を行い、実習の進捗状況を確認し、個別指導を強化する。実習終了後は学内で報告会を開催。その際は実習指導者に参加していただき、より実習での学びや気づきを深化させる。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
相談援助実習	国家資格である社会福祉士の受験資格取得に向けて、高齢者施設において相談援助の現場を見学・体験し、知識と技術の習得に努める。	天空の杜、花の季苑、シティケア博多、富の里、新宮借同園
精神保健福祉援助実習	国家資格である精神保健福祉士の受験資格取得に向けて、精神障害者施設や精神科病院において精神保健の現場を見学・体験し、知識と技術の習得に努める。	喫茶ほっと、カフェヒュッテ、ほのぼのHAKATA、オアシス、さくら

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

本学科では、日本精神保健福祉士学会において先進的な研究や実践等を行っている全国の精神保健福祉士と交流して、国の施策動向や最新の実践情報を収集し、その内容を教員間で共有し、学生に還元している。また、各教員が専門領域のみ見識を深めるのではなく、他専門分野との連携を図りながら、研修・研究活動を行っている。また、学生指導面においても、有用な指導案研修などはキャリアに応じて受講している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

第52回 公益社団法人日本精神保健福祉士協会全国大会 平成28年6月16日～18日
第15回 日本精神保健福祉士学会学術集会 平成28年6月16日～18日

②指導力の修得・向上のための研修等

1. 「インプレッショントレーニング®」 平成29年2月
(概要)印象力向上を目的として、教育現場や対外的な活動の場で活用するためのインプレッショントレーナーによる研修。
2. 学生支援研修 平成29年2月
(概要)共感的理解からはじまる支援の実際を中心に、生徒支援に定評のある高等学校の校長による研修。
3. インストラクショナルデザイン研修 平成28年9月
(概要)教職員として、教育力・指導力の向上を図る研修。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

第15回日本福祉心理学会(九州女子大学)
平成29年7月8日～9日

②指導力の修得・向上のための研修等

1. 退学防止研修:平成29年8月21日
2. 教育コーチング研修:平成29年8月22日
3. 教員フォローアップ研修:平成29年8月24日

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりをおこなう。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	・建学の精神・法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を明文化し、学校構成員で共有し、社会に公表しているか。
(2)学校運営	・学校の管理・運営体制が確立して、規定通りに運営しているか。

(3)教育活動	・学科の教育目的、育成人材像に向けたカリキュラムの作成等の取り組みをしているか。 ・教授学習プロセスの改善および教員の資質の維持や向上への取り組みをしているか。 ・業界ニーズに対応した付加的教育の取り組みをしているか ・教員の資質維持や向上にむけた取り組みをしているか
(4)学修成果	・各学科の教育目的に向けた達成度および成果を評価・公表しているか。
(5)学生支援	・学生支援体制を整備し、支援を組織的に行なっているか。 ・卒業生等に対する支援を行なっているか。
(6)教育環境	・教育の実施体制を整備しているか。 ・教育環境を整備・活用しているか。
(7)学生の受入れ募集	・学生募集活動を適正に行ない、入学選考を公正かつ適切に実施しているか。
(8)財務	・学校の財務体質は健全であり、財務運営は適切に行なっているか。
(9)法令等の遵守	・学科の教育目標、育成人材像に向けて自己点検・評価活動の実施体制が確立して改革・改善の為にシステムが構築がされているか。
(10)社会貢献・地域貢献	・意図的・計画的・組織的に社会活動への取り組みが推進されているか
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

卒業生及び施設等委員より、福祉人材の確保と卒業後の離職防止に向けた取り組みについての示唆があり、法人全体の組織としてよりも、学校単位・学科単位での取り組みに期待しているとの意見が挙げられた。福祉人材の不足は、福祉を目指す本校学生数の減少とも密接に繋がっており、企業や地域、職能団体とのつながりを強めていく方向性を共有することができた。学外の委員より、客観的な視点で評価をもらい、改善に向けて取り組む意義について教職員で共通認識を持つことができる。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
玉ノ井 敏子	(福)まごころ会 あゆみらい保育園 園長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
渡辺 裕子	(福)宰府福祉会 すみれ園 園長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
桑原 由美子	(NPO)発達障がい者就労支援ゆあしっぷ 理事長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
武田 聡	(福)福岡愛心の丘 月隈愛心の丘 施設長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
江川 順一	福岡福祉向上委員会 代表	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
大庭 欣二	(NPO)木もれ日 カフェ ヒュッテ 施設長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
占部 尊士	西九州大学短期大学部 准教授	平成29年4月～平成31年3月	その他
松尾 智子	(公社)福岡県介護福祉士会 研修委員	平成29年4月～平成31年3月	その他
大山 和宏	(一社)北九州地区 精神保健福祉協会 会長	平成29年4月～平成31年3月	その他
潮田 大介	(有)ケルック 事務長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
嗣島 和代	そえじま内科クリニック 事務長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
井上 将彦	(医)聖峰会 マリン病院 事務次長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
小西 英樹	公立学校共済組合 九州中央病院 事務部長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
池田 典生	(一財)日本医療教育財団 福岡支部長	平成29年4月～平成31年3月	その他
熊谷 智彦	久留米学園高等学校 校長	平成28年4月～平成30年3月	高校関係者
高田 照幸	株式会社 たかた商会 代表取締役	平成29年4月～平成31年3月	地域住民
中島 文香	こども未来学科 保護者	平成28年4月～平成30年3月	PTA
野上 祐子	社会福祉科 保護者	平成28年4月～平成30年3月	PTA
蒲池 桂子	福祉心理学科 保護者	平成28年4月～平成30年3月	PTA
尾下 千賀子	ソーシャルワーカー科 保護者	平成28年4月～平成30年3月	PTA
木下 典子	医療秘書科 保護者	平成29年4月～平成31年3月	PTA
塚本 のり子	医療情報科 保護者	平成29年4月～平成31年3月	PTA
所崎 あすか	診療情報管理士科 保護者	平成29年4月～平成31年3月	PTA
眞島 顕弥	こども未来学科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月	卒業生
宮井 浩志	社会福祉科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月	卒業生
児玉 諒	心理カウンセラー科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月	卒業生
池上 幸子	介護福祉科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月	卒業生
山下 朋子	ソーシャルワーカー科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月	卒業生
大本 葉	医療秘書科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月	卒業生
庄崎 綾乃	医療情報科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月	卒業生
中井 志帆	診療情報管理士科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ ・ 8月

URL:<http://www.asojuku.ac.jp/disclosure/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職指導状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者・保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めていただくことを目的とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、校訓、沿革、所在地、連絡先、魅力、麻生塾の取り組み
(2) 各学科等の教育	定員、カリキュラム、時間割、取得可能な資格、国家試験・検定実績、内定実績
(3) 教職員	教員一覧
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職進学サポート
(5) 様々な教育活動・教育環境	年間行事、部活動・サークル活動
(6) 学生の生活支援	学生寮、海外交流センター、プラスα制度
(7) 学生納付金・修学支援	学費について、特待生制度、学費分割納入制度、兄弟姉妹・親子入学奨学金、日本学生支援機構奨学金制度
(8) 学校の財務	財務情報
(9) 学校評価	自己点検・評価報告書、学校関係者評価委員会報告書
(10) 国際連携の状況	海外教育機関との連携、海外提携校、校納金特別免除制度
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.asojuku.ac.jp/>

URL: <http://www.asojuku.ac.jp/amfc/>

授業科目等の概要

(福祉・教育専門課程 福祉心理学科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			現代社会と福祉Ⅰ	現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。	1前	30		○			○			○	
○			現代社会と福祉Ⅱ	相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。	1後	30		○			○			○	
○			心理学理論と心理的支援	心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する。	1前	30		○			○			○	
○			保健医療サービス	相談援助活動において必要となる医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む）や保健医療サービスについて理解する。	1前	30		○			○			○	
○			相談援助の基盤と専門職Ⅰ	社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義について理解する。	1前	30		○			○			○	
○			相談援助の基盤と専門職Ⅱ	総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。	1後	30		○			○			○	
○			相談援助演習Ⅰ	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	1前	30			○		○			○	
○			相談援助演習Ⅱ	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	1後	60			○		○			○	

○			音楽療法Ⅱ	音楽の持つ生理的・心理的・社会的働きを、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上に向けて、意図的、計画的に活用する技法を学ぶ。	1 後	30				○	○							○
○			レクリエーションⅠ	レクリエーションの意義を理解すると共に、レクリエーションインストラクターの資格取得を目指して、その指導法について学ぶ。	1 前	30			△	○	○							○
○			レクリエーションⅡ	より実践的なレクリエーションの指導法について理解し、事業参加や体験を通してその力を身に付ける。	1 後	30			△	○	○							○
○			自己表現Ⅰ	演劇やダンスなどの表現活動を通して、自己を開放し、表現する力を身に付ける。	1 前	30				○	○							○
○			自己表現Ⅱ	演劇やダンスなどの表現活動を通して、自己を開放し、表現する力を身に付ける。	1 後	30				○	○							○
○			エンカウンター演習	エンカウンター体験を通して本音を表現し、それを互いに認め合う事で、自己理解や他者への気付きを深める。	1 前	16				○	○							○
○			グローバルシズンベシックⅠ	感謝と思いやりをテーマに、人間力、集団力、マナーの本質、行動力を学ぶ。	1 前	16				○	○							○
○			グローバルシズンベシックⅡ	志を立てることをテーマに、夢、ビジョン、志、国際社会、成功者、自己変革を学ぶ。	1 後	16				○	○							○
○			更生保護制度	更生保護を中心に、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職について理解する。	1 後	30				○	○							○
○			相談援助実習指導Ⅰ	相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。	1 後	44				○	○							○
○			ピアヘルパーⅠ	カウンセリングや関連する心理学の理論方法について学習し、教育・福祉・保育などの実際場面で人と関わる為に必要な基本的な力を身に付ける。	1 後	30				○	△	○						○

○		地域福祉の理論と方法Ⅰ	地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。）について理解する。	1前	30		○			○								
○		地域福祉の理論と方法Ⅱ	地域福祉の推進方法（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む。）について理解する。	1後	30		○			○								
○		社会保障Ⅰ	現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む）について理解する。	2前	30		○			○								
○		社会保障Ⅱ	社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて理解する。	2後	30		○			○								
○		障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む。）について理解する。	2前	30		○			○								
○		相談援助の理論と方法Ⅰ	相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解する。	1前	30		○			○								
○		相談援助の理論と方法Ⅱ	相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。	1後	30		○			○			○					
○		相談援助実習指導Ⅱ	具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	2前	46					○			○					○
○		児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（子育て、一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力（D.V）の実態を含む）について理解する。	2前	30		○			○								
○		精神疾患とその治療Ⅰ	代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援といった観点から理解する。	2前	30		○			○								
○		精神疾患とその治療Ⅱ	精神医療・福祉との連携の重要性と精神保健福祉士がその際に担うべき役割について理解する。	2後	30		○			○								

○		精神保健の課題と支援Ⅰ	精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について理解する。	2前	30		○			○			○					
○		精神保健の課題と支援Ⅱ	精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。	2後	30		○			○			○					
○		精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ	精神障害者の相談援助活動と法（精神保健福祉法）との関わりについて理解する。	2前	30		○			○			○					
○		精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ	精神障害者の支援に関連する制度及び福祉サービスの知識と支援内容について理解する。	2後	30		○			○			○					
○		精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	精神医療の特性（精神医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む）と、精神障害者に対する支援の基本的考え方について理解する。	2前	30		○			○			○					
○		精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	精神科リハビリテーションの概念と構成及びチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について理解する。	2後	30		○			○			○					
○		交流ゼミⅡ-①	他学年との交流を通してコミュニケーション力を高めると共に、学生間のネットワークを広げ、相互支援の基礎を学ぶ。	2前	16					○			○					○
○		交流ゼミⅡ-②	他学年との交流を通してコミュニケーション力を高めると共に、学生間のネットワークを広げ、相互支援の基礎を学ぶ。	2後	16					○			○					○
○		ピアヘルパーⅡ	カウンセリングや関連する心理学の理論方法について学習し、教育・福祉・保育などの実際場面で人と関わる為に必要な基本的な力を身に付ける。	2前	30		○	△		○								○
○		ピアヘルパーⅢ	カウンセリングや関連する心理学の理論方法について学習し、教育・福祉・保育などの実際場面で人と関わる為に必要な基本的な力を身に付ける。	2後	30		○	△		○								○
○		芸術療法Ⅰ	絵や音楽、陶芸や製作活動などを通して、知的障害者や精神障害者の心を表現させることにより、自立に向けての支援や精神疾患の治療に繋げる手法を学ぶ。	2前	30					○			○					○

○			相談援助の理論と方法Ⅲ	相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する（介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者自立支援法によるサービス利用計画についての理解を含む）	3前	30					○				○				
○			相談援助の理論と方法Ⅳ	相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。	3後	30					○				○				
○			精神障害者の生活支援システム	精神障害者の生活支援の意義と特徴について理解する。	3前	30					○				○				
○			精神保健福祉相談援助の基盤Ⅱ（専門）	精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解する。	3前	30					○				○				
○			精神保健福祉援助演習Ⅱ（専門）	精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	3前	60					○				○				
○			精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	3前	30					○				○				
○			精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ	精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整及び家族支援を含む）の展開について理解する。	3前	30					○				○				
○			精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅳ	精神障害者の地域移行支援及び医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について理解する。	3後	30					○				○				
○			交流ゼミⅢ－①	他学年との交流を通してコミュニケーション力を高めると共に、学生間のネットワークを広げ、相互支援の基礎を学ぶ。	3前	16					○				○				
○			交流ゼミⅢ－②	他学年との交流を通してコミュニケーション力を高めると共に、学生間のネットワークを広げ、相互支援の基礎を学ぶ。	3後	16					○				○				

○		カウンセリング概論	カウンセリングの基礎について理解を深め、カウンセリングの技法を習得する。	3前	30			○			○								
○		情報処理Ⅰ	情報の意味とコンピューターの発達過程、ハードウェア・ソフトウェアについて理解する。	3前	30			○			○								○
○		情報処理Ⅱ	社会に出て最低限必要なWord、Excel、PowerPointの基本操作技術を習得する。	3後	30			○			○								○
○		犯罪心理学	犯罪を犯してしまう人間の心理について知り、特に児童や精神障害者の触法について、そのメカニズムを学ぶ。	3前	30			○			○								○
○		就職実務Ⅱ	社会で求められる人材像について理解し、就職活動の流れや対策を深める。	3前	30			○			○								○
○		就職実務Ⅲ	社会で求められる人材像について理解し、就職活動の流れや対策を深める。	3後	30			○			○								○
○		金曜ゼミⅠ	福祉に関連する興味のある内容や分野について、自主的な学習を通して学びを深める。また、ボランティア活動を通して自己を研鑽する。	3前	30			○			○								○
○		金曜ゼミⅡ	福祉に関連する興味のある内容や分野について、自主的な学習を通して学びを深める。また、ボランティア活動を通して自己を研鑽する。	3後	30			○			○								○
○		福祉行財政と福祉計画	福祉の行財政の実施体制（国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む）について理解する。	3後	30			○			○								○
○		低所得者に対する支援と生活保護制度	低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。	3後	30			○			○								○
○		福祉サービスの組織と経営	福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など）について理解する。	3後	30			○			○								○

○			社会調査の基礎	社会調査の意義と目的及び方法の概要について理解する。	3後	30					○		○				○	
○			相談援助演習Ⅲ	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	3後	60					○		○				○	
○			選択授業Ⅰ	児童・身体障害・知的障害・精神障害・高齢者の中から将来を見据えて一分野を選択し、その学びを深める。	3前	16					○		○				○	
○			選択授業Ⅱ	選択授業Ⅰ以外のプラスα授業の中から、自己のスキルアップを目指し一科目を履修する。	3後	16					○		○				○	
○			精神保健福祉援助実習Ⅱ	総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。	3前	##							○			○	○	○
合計				89科目	2996単位時間(単位)													

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<ul style="list-style-type: none"> 各学年における当該学科の指定科目をすべて履修・修得していること。 学年の出席率が90%以上であること。 学生としてふさわしい生活態度であること。 	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。